

鳥取大学サイエンス・アカデミー

平成26年7月～8月テーマ

染色体研究と応用展開

染色体とは細胞の中で遺伝情報を担う生体物質であるゲノムDNAが集合したものです。鳥取大学では染色体工学研究センターを中心に医学部、農学部、工学部の関連研究者が連携して染色体研究を行っています。こうした研究の成果は遺伝子治療や再生医療、医薬品開発などに活かされると期待しています。今回は染色体工学研究センター及び医学系研究科に所属する研究者が染色体研究と医療への応用についてお話しします。

第380回

演題/ がんは遺伝子と染色体の病気

講師/ 医学系研究科 教授 久郷 裕之

日時/ 平成26年8月9日(土) 10:30～12:00

会場/ 鳥取県立図書館 2階大研修室(鳥取市尚徳町101)

図書館連携により、琴浦町図書館、日野町図書館(第4土曜日のみ)でもライブ中継による聴講ができます。

対象/ どなたでもご参加いただけます。

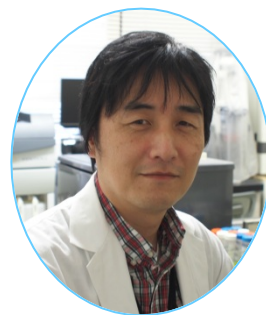
事前の申込みは不要です。

主催/ 鳥取大学 **共催/** 鳥取県立図書館

講演要旨

私

私たちの体はおよそ60兆個の細胞から成り立っています。その細胞中に存在する核と呼ばれている器官には遺伝情報(生命の設計図)が書き込まれた遺伝子が存在し、細胞分裂の際に染色体という形に折り畳まれ、遺伝子が均等に二つの細胞へ分配されます。がん細胞では、これらの遺伝子や染色体に異常が認められ、がん発症の大きな要因になっています。本講演では、がん発生のメカニズムについて新知見を加えご紹介したいと思います。



お問い合わせ先

鳥取大学 研究・国際協力部 社会貢献課

TEL 0857-31-6777

FAX 0857-31-6708

E-Mail koken@adm.tottori-u.ac.jp

講義テーマは裏面です。

Tottori University

Science Academy

第1回 平成26年7月26日(土)

演題：未来の医療・再生医療

講師：染色体工学研究センター 教授 多田 政子

体のどんな細胞にもなれる万能細胞とは？何度聞いてもピンとこない近頃のニュースを分かるようになりませんか？どんな生き物も最少の単位は細胞です。私たちの体には脳や心臓などいろんな組織があり、さまざまな細胞からできています。その細胞は全て1個の受精卵からできたことは容易に想像できます。iPS細胞の凄さは、この細胞の起源を辿る作業をヒトの手で実現したことにあります。細胞と生命との関係を考えてみませんか。

第2回 平成26年8月9日(土)

演題：がんは遺伝子と染色体の病気

講師：医学系研究科 教授 久郷 裕之

私たちの体はおよそ60兆個の細胞から成り立っています。その細胞中に存在する核と呼ばれている器官には遺伝情報（生命の設計図）が書き込まれた遺伝子が存在し、細胞分裂の際に染色体という形に折り畳まれ、遺伝子が均等に二つの細胞へ分配されます。がん細胞では、これらの遺伝子や染色体に異常が認められ、がん発症の大きな要因になっています。

本講演では、がん発生のメカニズムについて新知見を加えご紹介したいと思います。

鳥取大学 染色体工学研究センターのご紹介

鳥取大学 染色体工学研究センターは、染色体に関する研究を専門に行う世界で唯一の研究拠点として平成21年に設置されました。染色体工学とは、染色体の持つ歴史を利用して、新しく人工的に染色体を作り出し、生物の仕組みを理解したり、生物を意のままに操ったりするという大胆な学問です。

本センターでは、染色体を通して様々な病気の原因を究明し、その治療法を探求しています。染色体を研究していくことにより生物30億年の歴史もわかるため、病気の治療には大きな役割を果たします。

現在は、これまで培った最先端の研究成果をいかに迅速に実用化に繋げるかという課題に取り組むべく、日夜研究に取り組んでいます。